

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室
大項目	4 教育研究組織 (研究科) 《全学的な視点》	
中項目		
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。	
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1)研究活動の状況	
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。	
要素		

II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 定員充足率を改善する	→定員充足率	C	C	/	/	/
2. 課程博士取得率を改善する	→課程博士取得率	B	B	/	/	/
3. 学位取得に要する平均年数を短縮する	→学位取得平均年数	D	D	/	/	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
なし	→なし	/	/	/	/	/
なし	→なし	/	/	/	/	/

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目 4.0.1	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。 (説明) 各研究科では多くの制約の中、入試方法の多様化、入試説明会の開催、奨学金の充実を図り、定員充足率の低下傾向に歯止めがかけられつつある。(具体的には07年80%、08年78%、09年75%、10年74%、11年81%)
☆ 小項目 4.0.2	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) <input type="checkbox"/> いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明) 定員充足率については、毎年4月学部長会で、博士課程取得率については奨学金の検討委員会等で適宜情報を収集している。
その他	

《評価指標データ》

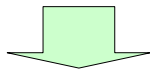
- 博士研究員（PD）の受入状況
- 日本学術振興会特別研究員（DC、PD）の受入人数
- 研究誌発行状況
- 提携大学との研究誌等の交流状況（送付・受入）
- 専任教員の発表論文数【基本的な指標データ】
- 学術賞の受賞状況【大学基礎データ】
- 学会誌・国際学会議事録等に掲載された学術研究論文数
- 21世紀COEプログラムの採択状況
- 文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業の採択状況
- 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業採択状況【基本的な基礎データ】
- 特定プロジェクト研究センター制度の活用状況
- 国際学会でのゲストスピーカーの延べ回数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目4.0.1	各研究科で入試説明会を開催して、志願者を広く集める取り組みを行っている。
☆小項目4.0.2	限られた予算の中で奨学金施策を工夫し、志願者増に向けて方策を打っている。
その他	



《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

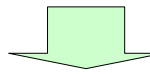
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目4.0.1	大学院教育の実質化が広く唱えられ、本学においても大学院教育の組織的展開の強化について検討を始める。
☆小項目4.0.2	更なる奨学金の充実を検討する。優秀な学生は学費免除となるような仕組みを検討する。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目4.0.1	
☆小項目4.0.2	学位取得の平均年数の短縮化は各研究科で努力しているが、組織的な取り組みにまで達している研究科はまだ、少ない。
その他	



《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目4.0.1	
☆小項目4.0.2	
その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

☆その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○本年1月の中教審答申「グローバル化社会の大学院教育」や「第2次大学院教育振興施策要項」などの趣旨を踏まえ、全学的な取組みが求められます。

【学内委員】

○4.0.2教育研究組織の適切性の検証について、定員充足率や奨学金の取得率の情報収集のみでは検証と呼ぶにはいささか不十分ではないでしょうか。「検証している」と「していない」の両方をチェックしているのは躊躇の表れでしょうか。

○学位取得の平均年数の短縮化に向けて改善方策は何か考えられないでしょうか。

○「現状の説明」において、定員充足率だけでなく、学部のシートにあるような一般的な現状説明が必要ではないでしょうか。

○定員充足率に関し、前期・後期ともその傾向にあるのでしょうか。

○定員充足率の低下傾向に歯止めがかかっている主たる要因について検証されることによって、奨学金制度等の適切な運用につなげられることが期待されます。

○昨年度と同様の記述です。昨年度の学内第三者評価でコメントしましたが、記述内容は本項目が求めているものではありません本評価項目は、研究科だけではなく、附置研究所・センター等の組織がどう構成され、それが適切かどうかという問いかけです。したがって、大学院の定員充足率や課程博士の取得率などを記述する箇所ではありません。これらは、「5 学生の受け入れ」「6 教育内容・方法・成果」における内容です。

○自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことわかる必要があります。そのためには、組織の全体図を示された上で、大学全体として学部・学科、研究科、専攻、センター、研究所などの構成や内容が適切なものかを、要素を参考にしながら現状説明されることが必要ではないでしょうか。大学院においては、専門職大学院についても特に説明が必要でしょう。

○学科や課程などの変更の動きなども、理念・目的の達成のための説明として必要ではないでしょうか。

○目標の設定についても再考する必要があります。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目4.0.1

基盤評価：なし

達成度評価：「教育研究組織が、当該大学、学部・研究科等の理念・目的を実現するためにふさわしいものである」

○小項目4.0.2

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、教育研究組織の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

追加記載なし。

☆